

令和 8 年 6 月 宝塚市長定例記者会見 議事録

日 時 6 月 22 日(月) 15 時 00 分から 15 時 40 分まで 場 所 特別会議室

出席者 (市) 市長、副市長、社会教育部長、総括担当及び社会教育担当次長 社会教育課長

出席者 (記者クラブ) 毎日新聞社、産経新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、神戸新聞社、NHK、
共同通信社

1 発表案件

夢の舞台で20歳の門出を祝福 「20歳のつどい」を宝塚大劇場で初めて開催

(社会教育課)

【質疑】

(記者) 固有名詞の確認ですが、「20歳の集い^{はたち}」の表記は算用数字で、頭に「宝塚市」が入るという認識でよろしいでしょうか。

(担当者) はい、その通りです。「宝塚市 20 歳の集い」となります。

(記者) 今年度の市在住の対象者は 2,376 人とのことですが、毎年だいたいどのくらいの方が参加されているのでしょうか。

(担当者) 例年 70%ほどの出席率となっております。昨年度(令和 7 年度)は対象者 2,165 人に対し、出席者は 1,586 人で、出席率は 73.3%でした。

(記者) そうすると、宝塚大劇場のキャパシティであれば、1 回で確実に式典を済ませられるという認識ですね。

(担当者) 大劇場の座席数は約 2,600 席ございますので、1 回での開催が可能と考えております。

(記者) 令和 10 年の会場の都合について、何か聞いておられることはありますか。

(担当者) 令和 10 年の開催につきましては、阪急電鉄様側で検討していただいたのですが、公演スケジュールの関係がございまして、「そのタイミングでの開催は難しい」との回答をいただいております。

(記者) 公演スケジュールの関係とのことですが、宝塚歌劇団は水曜日から月曜日に休演日を変更されたかと思えます。これに当てはめると、令和 10 年も月曜日であれば開催できるのではないかと勝手に想像してしまうのですが、いかがでしょうか。

(担当者) 月曜日が休演日になったことで、今回は開催可能となったのですが、令和 10 年に関しては「公演と公演の間の期間」にあたるのか、あるいは「公演中」なのかという、時期的な条件が異なると聞いております。舞台設定の転換や準備などを

考慮した結果、令和 10 年については難しいというお話を伺っています。

（記者）なるほど、公演が続いている期間の月曜日であれば舞台をいじらなくて済みますが、公演と公演の合間だと、次の舞台の準備などで様々な調整が必要になるということですね。資料には令和 11 年以降については未定とありますが、今後の見通しはどのようなのでしょうか。

（担当者）現在は全体のスケジュールを確認していただいている段階です。令和 11 年以降については、まだ全体の公演スケジュールが確定していない状況ですので、確認ができ次第、早めにお伝えしたいと考えております。

（記者）阪急電鉄様も、宝塚市のために色々と尽力してくださっていると思います。会場の使用費用などは無料にさせていただけるのでしょうか。

（担当者）費用につきましては、もともと今年度の「20 歳の集い」として用意していた予算がございますので、その範囲内で対応していただく形で阪急電鉄様側にも一定のご配慮をいただけているものと考えております。

（記者）宝塚歌劇団の本拠地ということもありますので、サプライズとして歌劇団の方が何かパフォーマンスをされるようなことはあり得るのでしょうか。

（担当者）現時点では、歌劇団の方のご出演は予定しておりません。あくまで「20 歳の集い」の企画委員（新成人らの代表）が、どのような企画にするかを考えていくことになっております。

（記者）歌劇団の中にも、ちょうど成人式を迎える年齢（二十歳前後）の方がたくさんおられるかと思いますが。

（担当者）現時点では、この開催決定の発表自体が初めてされたばかりの段階ですので、団員の方が出席されるかどうかについては確認をとっておりません。今のところ、出演の予定はございません。

（記者）今回の交渉について、市長が先頭に立って何かされたのでしょうか。

（市長）議会でも質問が出ていましたし、市民の皆さんからも従前から「宝塚大劇場で開催してほしい」というお話を色々といただいていました。どこから始まった話を特定するのは難しいかもしれませんが、様々な方面からのご希望がある中で、今回、私自身も阪急電鉄株式会社の皆さまとお話させていただきました。その裏にはやはり、先ほどおっしゃった公演スケジュールの変更（月曜休演化）もあつ

たのだろうと思いますが、協議を重ねる中で、阪急電鉄様が宝塚市を本当に大切にしてくださっているなという実感はありました。

(記者) 難航したというよりは、比較的早い段階で快諾を得られたという感触でしょうか。

(市長) 正直なところを申し上げますと、阪急電鉄様側で随分と色々と考えてくださったのだと思います。我々のほうからも、もちろん要望と言いますかお願いはしてまいりましたが、どちらかと言えば、阪急電鉄の皆さまの中で色々議論を重ねてくださった結果であると認識しております。

(記者) 背景についてお伺いします。資料に「開催を期待する声があった」と記載されていますが、例えば、具体的にこれまでアンケート調査などを行って調べられた結果、やはり大劇場を希望する声が圧倒的に多かったといったような、データのものはあるのでしょうか。

(市長) 私自身は、そのような具体的なデータは認識しておりません。正式な場としては議会でもお話がありましたが、むしろ市民の皆さんとの日常的な対話の中で、「やはり大劇場で」というお話を私自身も何回も受けてきました。そのため、形式的なアンケート調査のようなものがあるかどうかは把握していませんが、寄せられたご意見は随分と多かったなと思っております。

(担当) 補足いたしますと、これまで形式的なアンケート調査は行っておりません。ただ、これまでの会場であった宝塚ホテルですと、収容人数の関係上、1回では全員に入っていない状況にあり、2回に分けて式典を分散開催しておりました。それぞれの式典自体は非常に喜んでいただける内容で実施できていたとは思いますが、やはり「学年の全員が一堂に会したい」というお声は以前からいただいております。その中で、「大劇場でできれば」というご意見を伺ってきた経緯がございます。

(記者) 以前から要望の声があったとのことですが、なぜ今年、このタイミングで実際に動き始めたのでしょうか。何か具体的なきっかけがあったのですか。

(市長) 私は市長に就任して1年ですので、私自身の思いとしても「ぜひやってほしい」という気持ちはありました。おそらく従前から様々なレベルで話はされていたのだらうと想像しますが、勝手な予測を交えれば、やはり一番は歌劇団の公演スケジュールが変更されたことが大きなきっかけではないかと思います。

(担当) 月曜日が休演日になったという要素は大きいと思います。以前からそのようなお声があるというお話は阪急電鉄様にさせていただいていたのですが、なかなかタ

イミングが合わない時期が続いておりました。ただ今回、市長からも強く働きかけていただいたこともございまして、阪急電鉄様に変なご協力をいただけたものと考えております。

(記者) 月曜日が休演日になったというのは最近のことなのでしょうか。水曜日から月曜日に変わったのですか。

(担当) 2023 年 4 月から月曜日に休業日（休演日）が変更されております。

(記者) 費用面についてですが、宝塚ホテルで開催するのと、座席数の多い大劇場で開催するのでは、支払い先は同じで、会場費なども同じという理解でよろしいでしょうか。

(担当) 支払い先につきましては、両者は法人が異なりますので別になります。また金額につきましては、現時点ではまだ最終決定ではございません。しかし、現在の「20 歳の集い」の事業予算内で対応していただけるよう、調整しているところです。

(市長) 少し踏み込んで一般的な感覚でお話ししますと、大劇場という場所をお借りしながらも、従来の予算と同じ金額内に収めていただけるとというのは、阪急電鉄様が随分とご協力してくださっているということです。我々としては本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

(記者) 非常に破格の対応ということですね。演出面ですが、例えば大劇場の舞台設備、例えば「大階段」を使えるなど大劇場ならではの演出はできるのでしょうか。

(担当) 先ほどお伝えさせていただいた通り、当日は公演期間中にあたります。そのため、後ろの舞台セットなどはすでに次の公演のものが組み上がっている状態になっております。そちらの方は幕をひかせていただく形となります。

(市長) 補足しますと、そもそも宝塚大劇場は一般への「会場貸し出し」を行っている施設ではございません。したがって、「決まった額の利用料金」が設定されているわけではないという背景がございます。そのため、他と比較して金額が「高い」「安い」という概念自体が本来は存在しない場所である、と聞いております。

(記者) 確認ですが、令和 10 年の 1 月 10 日に関しては、公演と公演のスケジュールの合間の時期にあたるため開催できないということで、今年度のケースとは別条件になるということですね。

(担当) そうですね。現在、宝塚歌劇のホームページでも公開されているスケジュールを見ましても、ちょうどそのタイミングが「公演と公演の合間」の時期に重なって

いる状況です。

（記者）市としては、令和 11 年以降は未定とのことですが、今後も継続して大劇場を使わせてほしいという要望は出している、という理解でよろしいでしょうか。

（市長）気持ちとしてはそうです。

（記者）阪急電鉄様と交渉が始まったのはいつごろでしょうか。

（担当）以前から「こういうことができれば」という希望はお伝えしておりましたが、実際の本格的な交渉の場という意味では、今年に入ってからスタートしたという形になります。

2 その他

【質疑】

(記者) 来月から休館に入る「ナチュールスパ宝塚」についてお伺いします。まず休館を迎えることについて、市長としての率直なお考えや受け止めをお聞かせください。また、市民の利用も多く、本日取材に伺った際にも「休館になると困る」という声が多々ありましたが、そのような中で市民に対してどのようなメッセージをお伝えしたいでしょうか。

(市長) 今回休館になることに関してですが、確かに市民の皆様、そして市外の皆様も含めて、ナチュールスパ宝塚は大変特別な場所として、本当に多くの方にご愛用、ご利用いただいております。そのような中で、皆様にご不便をおかけすることは大変申し訳なく思っております。一方で、空調をはじめとする施設の設備がずいぶんと老朽化しております。今後も安全かつ快適にご利用いただくためには、やはりどこかの時点でしっかりと修繕をしていく必要があるのではないかと、私は市長就任時からずっと見てまいりました。今回の一時休館は、そうした修繕をしっかりとさせていただくためのものです。今後、より魅力的な形に再生させていく予定でございますので、その点をご理解いただければ大変ありがたいと思っております。せっかくの修繕の機会ですので、ある意味でバージョンアップをさせ、より快適に、そして楽しんでいただくための場にしたいと考えております。今般の議会でもご討議いただいているところではございますが、新しい民間の力を活用させていただくことで、より活発に、そしてこのナチュールスパ宝塚の強みである宝塚温泉の良さを味わっていただけるような工夫をしていきたいと考えております。

(記者) ナチュールスパ宝塚には様々な設備がありますが、市長ご自身は施設の魅力がどこにあるとお感じですか。

(市長) 大きく分けると3点あると思っております。1つ目は、何と言っても泉質です。有馬温泉とほぼ同じという、いわゆる我々が「金宝泉（きんぼうせん）」「銀宝泉（ぎんぼうせん）」と呼んでいる泉質は非常にユニークであり、実際に「入ってみて本当に良い湯だ」と感じていただける方が多いと思っております。2つ目は外観、建物そのものです。安藤忠雄氏のデザインによるモダンな造りでありながら、温泉施設として非常に素敵な建物であるという点が、2つ目の魅力だと考えております。3つ目は場所（立地）です。これにはいくつかの意味がありますが、宝塚にとって本当に大切な場所であり、なおかつ宝塚温泉のいくつかの源泉にも非常に近い大切な場所です。さらに、宝塚駅から歩いてすぐの場所にあり、武庫川の反対側（対岸）

からもよく見えるという、その立地自体が魅力であると考えております。

(記者) このナチュールスパ宝塚について、修繕費として2億6,000万円を次の事業者に委託する旨の議案が今議会に提出されています。委員会も通過しており可決される見込みだと思いますが、休館した後はどのような方針が決まっていて、どのようなスケジュールで何を目指していくのでしょうか。

(市長) 今般の6月議会で予算を承認していただければという話になりますが、可決され次第、速やかに公募型プロポーザルの手続きを進めていく予定になっております。そこで民間事業者を募集することになります。スムーズに進めば、来年(令和8年)春から工事に着工し、来年度中(令和8年度中)のリニューアルオープンを目指している次第でございます。

(記者) 公募型プロポーザルの具体的な時期などは、いつ頃から募集を始めるのでしょうか。

(市長) 今年の夏以降、できるだけ早い時期に開始したいと考えております。

(記者) ナチュールスパ宝塚に関しては、この3月に「普通財産」へと切り替わったことで、民間企業への賃借契約が可能になりました。公募型プロポーザルの手続きを経た後になりますが、市としては、これまでの「行政財産」としての関わり方から「普通財産」に変わるという点において、今後どのように関わっていこうとお考えでしょうか。

(市長) もちろん、民間事業者の方々にとってもう少し柔軟に、かつ自由に施設をお使いいただけるような工夫を、今回の仕組みの中でさせていただいております。一方で、あの施設そのものは宝塚市の所有でございますし、何よりあそこには「泉源」がございますので、そういう意味でも市としての関わり方は今後も大きいと思っております。ですから、民間事業者の皆様の知恵や経験を生かしていただきつつ、私たち宝塚市としては「あそこは宝塚温泉にとって本当に大事な場所である」という認識を共有しながら、共に盛り上げていこうと考えております。

(記者) 最後になりますが、そもそもナチュールスパ宝塚は、観光客の誘致や温泉の街を再び盛り上げようという目的で建てられたと聞いております。一方で、最新の統計を見ると、利用者の7割以上を地元の方が占めているという現状があります。今後は、引き続き「観光客の誘致」を旗頭に掲げて事業者を募集し、公募型プロポーザルの条件などに盛り込んでいくのか、それとも、より「市民に根ざした使い方」を盛り込んでほしいという形でプロポーザルを出していくのか、そのあたりの方針はいかがでしょうか。

(市長) 温泉という特性を考慮すると、やはり「両方の面」が必要であると考えております。

多くの地元市民の皆様楽しんで活用していただき、そこから健康になっていただくということは非常に大切な要素です。一方で、あの場所や外観を含めて考えると、それを目的に市外からも来ていただくということも本当に大切なことです。そのため、市民利用と観光客誘致の両方の面において活力を出していきたいと考えております。

(記者) 本日、現場で市民の方々にもお話を伺ってきたのですが、特に1階にある健康増進機能(フィットネスクラブ)について、「高齢の方が毎日通って健康を維持しているから、これは何としても維持してほしい」「ここで友達が増えて健康が維持できている。僕らに言わせれば、これは市の介護予防や予防医療のようになっているんだ」という意見もありました。よく利用されている市民の方は「改装してどうなるのだろう」と特に気にされているようですが、そのあたりについてはいかがでしょうか。

(市長) 今回はやはり民間の皆様の知恵を見させていただくという側面がございますので、最初から私たちとして「こういう方向で」と細かく決めすぎずに進めたいと考えております。もちろん「大浴場施設であること」は前提として守りたい一方で、ほかにどのようなアイディアが出てくるのかも含めて、様々な事業者のアイディアをまずは精査させていただこうと思っております。

(記者) 本日の文教生活常任委員会において、市民に大きな負担が生じる案件の審議が行われました。委員の方の出席状況もあって、かろうじて委員会を通過した形ですが、本会議での採決は非常にきわどい状況になるかと思います。市長としては、本会議での見通しをどのように見ておられますでしょうか。

(市長) 正直なところ、本会議での見通しは分かりません。ですが、私自身はこの市の今後を考えたときに、現在の宝塚市が置かれている財政の状況や、あるいは医療費をはじめとする社会保障費が置かれている状況を鑑みて、長い目で見て「本当に子育てができる、子育てをし続けられるまち」を創るために、自信を持ってこの議案を提案させていただいています。あとは、市民の代表である市議会としてどのようにご判断されるのかという点に尽きますので、少しハラハラドキドキではございますけれども、その行方を見守っていきたいと思っております。

(記者) 当然、市長としては可決された方が良いと思われるでしょうし、可決を目指されているかと思います。もし本会議で僅差となり、否決となった場合については、どのような道筋を考えておられますか。

(市長) もし否決された場合は、否決されたというその理由を含めて重く受け止めた上で、

我々としては、違う形でどのようにすれば優れた子育て施策を善処できるのか、あるいは財政再建や行財政改革をどのように進めることができるのかについて、少し違う道筋を考えることになるのかなと思っています。

(記者) 別の質問になりますが、今月中旬に西谷地区などの山の方で、クマの目撃情報が出ております。宝塚市としてのクマ対策はどのように考えておられますか。

(市長) 昨年末にも全国各地でクマに関する大きなニュースが相次ぎました。その当時から、宝塚市においても住宅地と山間地が非常に密接しているという地域特性があるため、クマに関しては今後非常に大きな課題になるだろうという予測をしておりました。そのため、市としてどのような対策ができるかという点について、この半年間ずっと整理を進めてきたところです。一方で、こうした対策は基本的には兵庫県が主導するものでございます。兵庫県には県立森林動物研究センターがございますので、そこを中心に色々対策を進めてこられた実績があります。そうした情報や県との連携を大切にしながら、今できることとできないことを整理し、目の前にある「クマかもしれない」という目撃情報への対応を行いつつ、中長期的な対策も考えている状況です。具体的には、例えば猟友会の皆様にどのようにご協力いただくかという点があります。正直に申し上げますと、宝塚市の猟友会はクマの捕獲等に関してそこまで多くの経験があるわけではございません。そうなってくると、近隣の様々な地域との連携が大切になってくると考えております。もう少し広い地域で「広域化」して連携を取れないかと思っています。

(記者) 今おっしゃった「広域化の連携」というのは、宝塚市以外の近隣自治体とも連携していくという意味でしょうか。

(市長) はい、近隣自治体も含めてという意味です。特に似たような山間部を抱える近隣の市町がございますので、そうした近隣の中でどのように情報をやり取りできるのか、あるいは猟友会にどのような形でご協力いただくのか、さらには警察、あるいは現在は要請できませんが場合によっては自衛隊といった組織との間で、どのような連携が図れるのかを精査していく時期だと考えております。

(記者) 分かりました。ありがとうございます。

(記者) 今のクマの話題に関連して質問いたします。一番心配なのは子どもたちの安全だろうと思います。現在、各自治体の対応を見ていると、はっきりとした目撃情報があれば「全市一斉休校」にするとところもあれば、地域を絞って対応するところなど、

色々なやり方があると思います。宝塚市は市域がかなり広いですし地域性もあります。例えば、具体的なはっきりとした目撃情報があった場合、その対象地域の学校を休校にするのか、あるいは市内のどこかで1頭でも発見されれば捕獲されるまで全市一斉休校にするのかなど、市立学校の対応としてすでに決められているガイドラインや方針はあるのでしょうか。

(市長) 対応の方針につきましては、機械的に一律で決めるべきではないと、現時点では考えております。情報の確度や、目撃された地域などの条件によって判断いたします。宝塚市は地理的に地域ごとの特性がかなり異なりますので、当然ながら子どもたちの安全を第一としつつも、「どのような状況でどう判断するか」については、今のところ機械的な一律対応ではなく、臨機応変に考えていくつもりです。今回も、関係する学校に対してはすでに必要な情報提供を行っております。教育委員会とも今後しっかりと話し合いながら、臨機応変に、かつ子どもたちの安全を第一に考えて判断していきたいと思っております。

(記者) 周知の方法としては、とりあえず市のホームページやそれぞれの学校のホームページで発表するのと同時に、学校へ直接連絡を取るという形になるのでしょうか。

(市長) そうですね。ホームページ等でお知らせを公表すると同時に、学校から保護者へダイレクトに周知する体制を敷いておりますので、そのような形で迅速に進めてまいります。

以上